



校報 水糸者

No. 861

29年度・第34号

いよいよ、待ちに待った 修学旅行!

～昨年度から、「函館研修の旅」となっています～

6年生が楽しみにしている修学旅行がいよいよ明日になりました。

本校の修学旅行は、昨年度から昭和47年度以来という久しぶりの『北海道・函館』となりました。事前学習にも特に熱が入っており、子ども達は連日調べ学習や係の確認に励んでいます。昨日の全校朝会では『修学旅行・行ってきますの会』が、今日は結団式があり、いよいよ修学旅行への期待と楽しみが最高潮に達して来ました。

2日間の修学旅行では、教室で学んだ事を実際に見たり聞いたり、触ったりする事で広げたり深める事ができます。その体験が8月に洋野町で開催される『東北海洋サミット』にも活かされていく事となります。

また、友達や自然とのふれあいを通して、絆も一層強固になる学び多き、実り多い有意義な修学旅行となるはずです。

子ども達の、これからの学校生活における学びが確実に変容していく、貴重な体験と学びが盛り沢山に詰まった、修学旅行がいよいよスタートします。

意欲と絆が高まった 修学旅行・行ってきますの会



6日の全校朝会で、在校生に対して6年生から「行ってきます」のあいさつがありました。

6年生を代表して田毛さんは「最強クラスの『絆』を強め、思い出の修学旅行にします。留守中、よろしくお願ひします。」と、在校生に対して、力強くあいさつをしました。



6年生不在中に、学校の「最上級生」となる、5年生の表情が一段と引き締まっていました。

【…種小の思い出 「お米を持参して2泊の修学旅行でした」…】

昭和46年、6年生だった私の修学旅行は、今回と同じ「函館」でした。今と違うのは、青函連絡船がなくなったことと2泊3日の日程ではなくなったことです。1つ上の先輩からは「(青函連絡船の)摩周丸や羊蹄丸は揺れるぞ。絶対に酔うぞ。」と脅かされたり、「大雪丸や八甲田丸なら大丈夫だ！」等など聞かされたものでした。現在の修学旅行と決定的に異なることは、当時はお米2合を持参しての修学旅行であったということです。その持参したお米は、宿泊した旅館に渡すためのものでした。

なお、函館への修学旅行は、私の1つ先輩たち(昭和47年度卒業生)が最後となり、その後は平泉方面の修学旅行がしばらく続き、昨年度からまた「函館」のコースとなっています。



修学旅行のコース紹介 「北海道・函館方面」

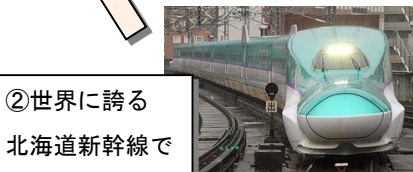
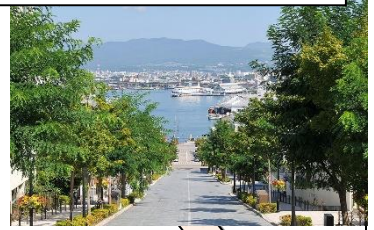


③ ホテルリソル函館の、昨年度の6年生が絶賛したカツカレーで元気を回復。

④ 函館海洋センターは、水産・海洋分野の研究開発や、函館港が一望できる展望ロビーが人気！



⑤ 函館のメイン観光地の1つ、元町の散策。石畳の坂道に沿って多数の教会が建ち並び、異国情緒漂う街です。



② 世界に誇る北海道新幹線で一路函館へ！

第1日目・6/8



⑥ 湯の川温泉・湯の浜ホテルで、疲れた体と頭をゆっくり休めます。

① スクールバスで八戸駅へ

出発…8:00

種市小学校

到着…16:30



⑦ 最後は、100万ドルの夜景を堪能します。子ども達の歓声が聞こえてきそうです！

第2日目・6/9



⑩ たくさんの思い出と学びをリュックに詰め込み、一回り大きくなって学校に到着。



⑧ 温泉につかり、夜景を堪能し元気をすっかり回復した6年生の2日目のスタートは戊辰戦争の終結の地、五稜郭の見学です。



⑨ 人気の赤レンガ倉庫群で楽しいお買い物。この付近で、おいしい昼食をいただきます。

子ども達の帰宅後の第一声は「楽しかった！」の予定

学び

6年生は教室で学んだ事を、実際の目で見たり、手で触れたりする事により、知識を一層広め、深めていき、学びの奥深さや楽しさに気づく事でしょう。

絆

親元を離れての、1泊2日の友との共同体験・共同生活は、友や自然との絆をますます太く、強くしていく他に、親のありがたさも再認識する事でしょう。

修学旅行の様子については、リアルタイムに本校のブログに掲載していきます。ブログ掲載時や6年保護者へのご連絡がある時には、ホームページ上の「緊急告知」で、先ずお知らせします。